

令和8年3月26日

筑紫野市議会議長 殿

会派 つくし野 一同

R7 年度 会派つくし野 視察研修報告書

会派つくし野が実施した視察研修について、下記のとおり報告いたします。

記

1. 視察日程

令和8年1月 19日(月)～1月21日(水)(2泊3日)

2. 視察先及び研修項目

● 1月19日(月)

研修先:沖縄県名護市

会 場 :名護市役所

項 目 :多世代交流施設整備基本計画

● 1月20日(火)

研修先:沖縄県国頭郡国頭村

会 場 :国頭村役場、やんばる森のおもちゃ美術館

項 目 :指定管理者選定、木育

● 1月21日(水)

研修先:沖縄県南城市

会 場 :南城市役所

項 目 :地域公共交通、観光客向け二次交通手段、自動運転移動サービスの導入実証実験

3. 視察者

会派つくし野

横尾 秋洋 赤司 泰一 高原 良視 原口 政信 八尋 一男

城 健二 前田 倫宏 檜木 孝一 赤司 祥一 合計 9名

4. 内容 別紙のとおり

P2～6 1日目 / P7～9 2日目 / P10～12 3日目

沖縄県 名護市

視察日:令和8年1月19日(月)

記録者:赤司 祥一

【説明者】

次長 宮城 佳織 様 / 課長 饒平名 知巳 様

係長 池間 亮太郎 様 / 主事 久高 大志 様

【名護市の概要】

名護市は沖縄本島の北部に位置しており同県北部で最多の人口を有する。1970年(昭和45年)8月1日に名護町、屋部村、久志村、羽地村、屋我地村の5町村の合併により誕生した。2000年(平成12年)行われたG8主要国首脳会議の開催地となった。中心市街地は名護湾に臨み、背後に山地がそびえ、同県北部地域の中心都市で国や県の出先機関も多く、商業が活発。農業ではラン、キクなど草花のほか、果樹・野菜の栽培が盛んで、漁業ではカツオの水揚げが多く、タイ・クルマエビの養殖も行われる。沖縄自動車道が通じ、海岸は景勝地で海水浴場もある。市街地東方にある名護城址はカンザクラの名所で、近くには街齢300年のひんぷんガジュマルがあり、荷の精霊「キジムナー」がいたと言われる。沖縄そばの「ソーキそば」発祥の地と言われている。

人口 65,254人(2025.12.31) / 市面積 210.80 km²

令和7年度一般会計予算額:約497億8千万円 / 市議会議員数 26人

【視察目的】

多世代交流施設整備基本計画について学び、本市で同類の施設整備検討に活かしていく。

【研修内容】

(概要)

平成28年の児童福祉法等の改正による子ども家庭総合支援拠点の整備を前提とし、令和元年度に「名護市子育て支援交流施設整備基本構想」を策定。市民ニーズの高かった児童センターの老朽化という課題も反映された構想。その後令和4年度開所予定の子ども家庭総合支援拠点機能・児童センター機能・その他の子育て関連支援機能の複合化を図り、加えて、高齢者の健康・生きがいに関連する拠点機能との連携促進を図り、ユニバーサルデザインの考えに基づく複合施設としての多世代交流施設として計画を策定することとなったのが背景。

上位計画である「名護・やんばるの自然と文化拠点施設基本計画」に基づき、隣接する新名護博物館との機能的・運営的な連携が必須としている。

用途地域が第一種低層住居専用地域に指定されており、児童厚生施設等の延床面積は600m²以内に制限される。しかし施設全体では2,000m²前後を想定しており、この法令制限への対応が課題であった。

[施設が持つ5つの主要機能]

- ①文化・交流機能 / ②子育て支援機能 / ③教育機能
- ④共通機能・・・エントランス、事務所、トイレ、授乳室
- ⑤屋外機能・・・駐車場(利便性、緑化、イベント活用)、屋外遊具など

(事前質問事項 1)

世代別ではなく、なぜ世代間交流施設なのか。

(回答)

まず、多世代交流施設は以下の3つの交流拠点として整備している。

(1)子どもの成長を育む拠点

親と子が安心して過ごせる場であり、子育てに関する情報交換や親同士の交流、多様な世代が集うイベント開催等で新たな交流を創出し、地域全体で子どもの成長を育む拠点とする。

(2)切れ目のない支援の拠点

妊娠・出産・子育てに関する切れ目のない支援を通して、安心して子育てできる環境を整備

(3)高齢者の社会的孤立予防と社会参加・生きがいづくりの拠点

子どもたちとの交流を通して高齢者が経験や知識を活用できる活躍の場や生きがいづくりを生み出す交流拠点として、高齢者の社会的孤立を防ぎ、ボランティア活動、地域貢献等の社会参加の機会を促進。

以上のように、当該施設は「子どもの成長を育み地域がつながる多世代交流施設」をコンセプトに、子どもから高齢者までの幅広い世代にとって拠点となる施設を目指している。

(事前質問事項 2)

市民との施設整備に対する合意形成はどのようになされたのか。

(回答)

基本構想や基本計画策定時に区長会や関係機関とのヒアリングをはじめ、アンケートによる意見聴取を行ってきたほか、基本設計では、大中区代議委員会や各地区の区長会等へ事業の説明を行い、頂いたご意見を計画や設計に反映させている。その後、令和5年度の実施設計においても建設予定地の隣接地主の方々及び大中区の代議委員会への説明を実施している。

・令和元年度 基本構想(計画地周辺区長・関係機関ヒアリング、アンケート)

・令和3年度 基本計画(関係団体・機関ヒアリング、市民・児童センター利用者WEBアンケート)

・令和4年度 基本設計 大中区代議委員会や各地区の区長会等へ事業の説明

・令和5年度 実施設計 隣接地主の方々及び大中区の代議委員会

(事前質問事項 3)

施設への地域からの交通手段はどのようになっているか。

(回答)

小中高生であれば徒歩や自転車等、一般の方については車での交通手段を想定。隣接する名護博物館へはコミュニティバスのバス停もあるため、子どもや高齢者等の車を運転しない方向けの交通手段として想定している。

(事前質問事項 4)

財源の内訳はどのようになっているのでしょうか。

(回答)

令和3～7年度の5年間合計、約17億円のうち、80%が沖縄振興一括交付金から出ている。

【質疑応答】

Q. 高齢者向けの施設は元々なかった？関係機関とは？大中区代議委員会とは？

A. 相談機能が分散している現状があった。大中区の公民館でやっている高齢者の活動が手狭になっている現状も解消することができる。55行政区の中にそれぞれ20名程で代議委員会をつくっており、その大中区とやり取りを行う。

Q. 子育て支援機能で参考にした他自治体(かすやこども館、大牟田市、大川市、福津市)から具体的に何を取り入れた？真ん中の屋外エリアの反響は？

A. 真ん中のエリアは令和9年度に完成予定。参考自治体を回った結果、総合的に判断し、グラウンドゴルフもできるような広場を設計。遊具エリアは乳幼児と幼児・小学生などに分けて配置予定。水遊びエリアは無くなるかもしれない(検討中)。

Q. 教育機能を具体的に知りたい。

A. 教育研究所について：小中学校の先生が一年間・半年間など限定で出向して研修・研究を行う。不登校の子たちが通える『あけみお学級(20名程)』も入れ込む：入口を分けることで不登校の子も安心して入れるように独立。名桜大学を借りていたが、それをここへ移管予定。

Q. 構想は地域住民から出てきたのか？

A. 各子育て相談施設の点在、児童センター老朽化、役所も手狭・・・という子ども向けの課題が前からあった。最初は子育てだけの施設構想だったが、他にも存在する課題を同時に解決できる場をせっかくなら作ろうとなった。そこで高齢者の活躍の場なども含めていった。

Q. アンケート対象者は？

A. 保護者もだが、中高生にもヒアリングを実施している。放課後勉強できる場所もなく、ファーストフード店などでやっていた。その空間も作る予定。

Q. 議会の反応は？

A. ダメという意見は無く、追加でこんなのもどうかなど建設的な意見が出た。

Q. 運営形態とランニングコストについて

A. 個人情報もあるので、最初は直営でスタートする予定。その後指定管理を検討していく。市の単費(一般財源)で行っていく。

Q. 他の案はあったか？

A. 不明だが、障がい者なども遊べるインクルーシブなものは今でも追加想定している。

Q. 市長選挙後なのか？政治的なものが働いた？

A. 元々子育て支援施設構想は結構前からあった。市長が変わってから高齢者など複合的なものを入れるよう指示があった。

Q. 用途地域の法令制限への対応は具体的にどのようなことをした？

A. 2,000㎡にもっていくため、第一種中高層住居専用地域の部分を入れ込んでクリアした。

Q. 子育て相談について：療育相談も含めた対応を考えている？

A. 言葉の教室(by 社会福祉協議会)は入る予定。気軽に相談に来れる場所を想定しており、ディープな相談は本庁で受けるようになると思う(新施設は明るい雰囲気のある場所に来にくい)

【まとめ】

17億円の内、80%が沖縄特化の国の交付金から出ていることは強いと感じた。一方でこれまでに行った視察先にも多かったように、老朽化した施設の建て替えに併せて複合計画を立てている点はタイミングも重要であることを再認識した。参考にしている施設がほぼ福岡であったため、改めて本市としても、県内の施設を参考に子ども館やその他施設検討の参考にしていきたい。多世代向け施設となると、どの世代でも来やすいような交通アクセスを考えねばならない点も、現地へ行くことでリアルに見えた。

【視察写真】 ※次ページ

基本計画図



施設イメージ図



沖縄県 国頭村

視察日：令和8年1月20日(火)

記録者：檜木 孝一

【説明者】

農林水産課課長補佐 神里 一教 様
技 師 山城 光希 様

【国頭村の概要】

国頭村は、沖縄本島北端に位置し、村面積は 194.85K m²で 5 番目に広い面積を有し、県全体の約 8.5%を占める。村の中央部には沖縄本島最高峰の与那覇岳(標高 503m)がある。村域の約 84.3%が森林で、農地は約 1.7%。森林域はいわゆる「やんばるの森」で、ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、ヤンバルテナゴコガネなど多種多様な固有種・希少種が生息している。その豊かな自然は多くの生き物たちの生活の場所を保証するとともに、動植物の多様性をもたらし、現在では「野生生物の宝庫」として学術上貴重な地域となっており、令和 3 年に世界遺産に登録され魅力ある村として国内外から注目されている。本島最北端の辺戸岬と鹿児島県の与論島とは 28km しか離れておらず、村の面積の 23%を米国海兵隊の訓練場が占めている。林野庁の森林セラピー基地に認定されている。

人口 4,291 人(2025.12.1) 令和 5 年度一般会計決算額 約 72 億 9 千万円 市議会議員数 10 人 村の木 イタジイ、村の花 サクラツツジ

村の鳥 ヤンバルクイナ
マスコットキャラクター



くーやん
キョんキョん



【視察目的】

国頭村の森林公園、やんばるの森おもちゃ美術館における「指定管理者の選定について」を視察研究し、本市における取組みの参考とする。

【研修内容】

森林公園は、住民の保健、休養の場として、また森林の持つ機能を多面的、総合的に利用することによって林業経営の合理化の推進を図り、国頭村の持つ豊かな自然環境を自然保護との調和を図りつつ都市生活者へも提供し、地域の発展に資することを目的として昭和62年に設けられた。主なアクティビティとして、キャンプ、森林散策、森林セラピー、星空ツアー、森の探検ツアー、生き物モニタリング、星空フォト等がある。やんばるの森おもちゃ美術館は、平成25年交流促進センターを子どもたちの木育事業拠点施設として整備された。平成18年度から地元の森林組合が指定管理者に選定され運営を行ってきたが、さらなる魅力発信のため令和4年に森林公園は株式会社ティーシーエイが、おもちゃ美術館は芸術と遊び創造学会(東京おもちゃ美術館)が選定された。今回の視察では、主に森林公園の指定管理者の取組を学んだ。

《実績》

令和3年度までの運営の収支は、村からの指定管理料を含まなければ赤字経営の状態であり利用者も年々減少傾向であったが、令和4年度からは黒字傾向が続き利用者も回復傾向となった(コロナ禍により利用者数が以前と比較困難な部分あり)。

《今後の課題》

令和4年度からの森林公園の指定管理事業者が方針転換により撤退することとなり、令和8年度から新しい事業者を選定したが、公募に応じる事業者が少なく対応に苦慮したことから、さらなる森林公園の利益面でのメリットを創設する必要があると感じた。

【主な質疑応答】

Q 村にとって指定管理によるメリットは何か。

A 職員の負担軽減、予算面・雇用面において行政に縛られないこと、民間意識・ノウハウによる積極的な運営、村の財政面の負担軽減など。

Q 公募の期間と方法は。

A 公募による方法。HP 等による周知をおこなった。

Q 指定管理にあたり設備投資等はされたのか。

A 新規に整備、機能が強化される施設・設備は村が負担する。補修の場合は基本的に指定管理者が行うが、指定以前からの不具合の場合は協議のうえ決定。施設の草刈り作業は村が負担している（約 250 万円）。

Q 地域団体等との連携、アプローチ法は。

A これから充実していきたい。公園内バーベキューでの連携、森の探検ガイドでのガイド役を担ってもらいたい。JAL ネイチャーツアーとの連携なども検討している。

Q 環境譲与税の活用は。

A 令和 4 年度多目的施設基本設計事業(7,403 千円)、6 年度キャンプドーム設置事業(3,795 千円)、キャンプドーム電気設備業務(2,600 千円)

Q ウッドスタート事業とは。

A ブックスタートを做った事業。村内の新生児を対象に、村産材を使用した積み木を贈呈。身近にある木に触れる機会を通じて子育て環境の充実を図ることと、地域材の消費拡大を推進する狙いがある。

Q 森林公園整備の発想はどこからか。

A 伐採を主要な産業とするなど昔から林業盛んで、市民公園がなかったため両者を結びあわせ森林公園となった。

Q 指定管理料の推移は。

A 平成 18 年度 4,999 千円、20 年度 4,500 千円、25 年度 4,050 千円、30 年度 4,100 千円。令和 4 年度（新指定管理者）0 円

Q 森林公園として特に発信したい事は何か。

A 木に囲まれたキャンプ場で休養してもらいたい。国頭村でしか提供できない癒しを感じて欲しい。

【まとめ】

平成18年度から村森林組合が指定管理者として事業運営を行ってきたが、維持管理に重きがおかれ施設の魅力発信が期待通りでなかったため、令和4年度から村は方針転換。施設利用率を上げ、村の歳出予算を削減する狙いから株式会社を指定管理者に選定。新しい指定管理者は確実な運営を行い、令和6年度村の指定管理料0円のうえで、収支約47万円の黒字を成し遂げている。事業内容を今後、さらに充実させることで事業者は黒字額を上振れさせることができ、村の人件費等の負担軽減とあわせ、指定管理制度のメリットが活かした事例であるといえる。本市が今後同様の取組を検討するうえでの参考としたい。



沖縄県 南城市

視察日:令和8年1月21日(水)

記録者:八尋 一男

【説明者】

DX 推進課長 山田 正 様

交通政策課 八幡 正也 様

議会事務局次長 比嘉 勇順 様 (司会進行)

【南城市の概要】

南城市は、平成18年(2006年)1月1日に1町3村が合併、那覇空港から40分圏内で緑豊かな自然環境に恵まれ、離島である久高島は、神の島、琉球民族発祥の地として崇敬されている。他に世界遺産である斎場御獄(せーふあうたき)をはじめ歴史を刻んだ多くのグスク(城塞)、東御廻り(あがりゅうま-い)の文化遺産など貴重な歴史・文化遺産を持っており、沖縄の歴史、文化、信仰の原点の地となっている。美しい海岸景観や貴重なさんご礁の海を持つ臨海地域はビーチやリゾートセンターなど観光資源に恵まれ市民の温厚で飾らない気質は、国内外との交流を促進する上で大きな魅力となっている。恵まれた地域資源、人々のネットワークを活かし「いやしと健康」をテーマに体験滞在交流型の観光振興と健康づくり事業に取り組んでいる。「日本一元気で魅力ある南城市づくり」に邁進している。

令和7年(2025年12月)の人口は47,325人、面積(50km²)、議員定数は20名

予算規模320億5千万円(令和6年度一般会計決算額)

市の木/琉球黒檀、市の花/ハイビスカス

【視察の目的】

地域公共交通及び観光者向け二次交通手段を柱に地域公共交通網形成計画、同再編実施計画を策定されており、その実施状況を視察研究し、本市の取組に活かす。

【研修内容】

1 「おでかけなんじい」ドア to ドア方式の区間運行(フルデマンド)について

久高島を除く南城市全域 500円/人・回、未就学児無料、75歳以上200円

2 登録制で完全予約制(30分前まで)、観光客は登録必要なし

3 営業時間は9時~17時(平日)、9時~15時(土日祝)

4 4人乗りでタクシーの便利さと路線バスの手軽さを併せ持つ交通サービス

5 自動運転の取り組み(実証実験)について

レベル4に向けて安全性の検証を行い、走行に必要な課題整理を行っている
信号機がある国道をまたぎ800mの区間を運転手同乗のレベル2で実施
国道またぐことで国交省が難色を示したが、NTT・マクニカで許可が下りた

801名が安全に乗車(ヒヤリハット2件)80%自動運転で走行できた
地域公共交通確保維持改善事業費補助金を(自動運転社会実装推進事業)活用
運転手不足でない状況であり今後どうしていくか検討中について説明を受けた。

《今後の課題》

自動運転車両が高価(3500万円)でメンテナンスが県内で出来ない、対ガソリン車割高

【主な質疑応答】

デマンドバスについて

Q:道路運送法 78 条の適用か

A:第 4 条を適用、実証実験時(運賃無償)は、シルバー人材センターに運航委託していたが終了後は(運賃有料)市外のタクシー事業者(緑ナンバー)に変更、ドア to ドアです。

Q:タクシー業界との問題は

A:当初ありました。市内にタクシー業者2社あり現在は検討委員会にされてきた、また運転手不足で手が回らなくなっているのも一因。

運行主体は南城市で委託している

Q:旅行者とか乗れない時の対応は

A:完全予約制であり問題は発生しない

パーク&バスライドについて

Q:駐車料金は 利用状況は

A:パーク&ライドとしての利用状況は把握していないが、市役所に隣接している公共駐車場(南城市観光振興拠点施設)の料金は1日(24H・午前0時～翌日午前0時まで)当たり100円である。

Q:利用状況は

A:公共駐車場の使用台数は、年間約141000台(386台/1日換算)R4～R6の平均2,000台駐車可能で飛行機利用時のハブ、イベント、職員が利用。集金方法は、カメラによる駐車システムで委託700万円/年、ゲート式1000万円、人1200万円。
がっちりマンデーを参考、福井県内の自治体について2番目

Q:3つのバスターミナル集約化に向けた事業者の協力は

A:まだ集約化は出来ておらず検討中、コミュニティバスを運行委託するバス会社1社が市役所内の事務所及び駐車場に移転している。

Q:観光実施計画策定に当たり、観光客、市民の視点はどのように集約されたか

A:基礎調査を実施し観光客や事業者が求めることを的確に捉え、その内容を踏まえ、検討委員会やワーキングで様々な課題を検討し本計画を策定した。

Q:公共交通アテンダントに対する利用者の評価は

A:好評です。

【まとめ】

- ・令和6年度から交通政策課を新設し専門特化、取組み姿勢の意気込みが違う。
- ・路線バスとしての役割を担うべくコミュニティバスに力を傾注(南城市バス)。
- ・ドア to ドアのデマンドバス(乗合タクシー)は、旅行者にも利用でき本市も検討すべき。
- ・運転手不足が起きている状況下では、自動運転導入に向けた取組み開始すべきである。

